

(2) 本市における認知症高齢者の今後の見込み

長期の縦断的な認知症の有病率調査を行っている久山町研究（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学 二宮教授）のデータから推計した認知症の有病率の数値を用いて、本市における認知症高齢者の人数を推計しました。

まず、本プランの計画期間である令和3（2021）年から令和5（2023）年まで、および令和7（2025）年の総人口、高齢者人口の推計値と、令和2年現在の現状値は次のとおりとなっています。

【人口の将来推計】

	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和7年 (2025年)
総人口	135,386	136,114	136,848	137,585	138,686
65歳以上人口	30,205	30,724	31,240	31,760	32,542
75歳以上人口	14,636	15,185	16,160	17,311	18,919
高齢化率	22.3%	22.6%	22.8%	23.1%	23.5%
75歳以上比率	10.8%	11.2%	11.8%	12.6%	13.6%

*住民基本台帳（令和2年10月1日時点）

上記の高齢者推計人口に、久山町研究により推計した有病率を乗じ、認知症有病者数を推計すると、令和5（2023）年で**5,259**人、令和7（2025）年には5,618人になると予想されます。

また、久山町研究からモデルを作成すると、生活習慣病（糖尿病）の有病率が認知症の有病率に影響することが分かっています。糖尿病の有病率が増加すると仮定した場合、認知症有病者数は令和7（2025）年で6,080人になり、糖尿病の有病率が一定だった場合と比べ約460人増加、有病率にして1.4ポイントの上昇が見込まれます。

